

平成 21 年度

事業計画書

財団法人 車両情報センター

平成 2 1 年度事業計画

我が国の景気は、世界的な金融危機を背景に、急速に悪化している。競輪の車券売上についても依然低迷を続け、取り巻く環境は一段と厳しい状況にある。

このような状況を踏まえ、引き続き事業運営には特段の効率化と業績の向上に対する積極的な取り組みが求められていることから、本財団は、競輪関係団体と緊密な連携協調のもとに、お客様及び競輪関係者の要望を満足させ信頼を得ながら、競輪の発展に寄与するシステムの開発及び安定したシステムの運用管理の事業を展開する。

平成 20 年度に競輪政策決定会議において、「次世代車両情報システム」として次世代トータリゼータシステム構築及びインターネット競輪動画サービスシステムの開発が決定されたことを受けて、中期的な重点事業として引き続きこれらシステムの開発を実施する。

また、サービス及び信頼性の向上を目指して、電話投票システムの拡充、KEIRIN.JP の改善、及び競輪諸制度の改正に対応した開発を行う。

システムの運用管理については、前年度に新たに実施された電話投票システムの拡充及び競技関連制度の変更等に十分に配慮しつつ、競技情報関連、KEIRIN.JP 関連等の業務システムを、効率的にかつ安定して運用する。また、本年度は、新たに稼働する次世代トータリゼータシステムの運用管理を円滑に実施する。

さらに、平成 20 年 6 月 1 日に発生した KEIRIN.JP の障害が競輪開催運営に重大な影響を及ぼしたことを踏まえ、危機管理マニュアルに基づき障害の未然防止に努めるとともに、障害発生時には迅速で的確な対応を実施する。

上記に加えて、公益法人制度改革及び次世代トータリゼータシステムの構築、運用等、事業の拡大に対応するために事業・組織の見直し、規程類の整備、技術力の向上等本財団の運営管理の強化を図るとともに、本財団及び V I S の信頼性の向上を図るためにシステムの外部監査を実施する。

1. 次世代車両情報システムの開発

平成 20 年度に競輪政策決定会議において、「次世代車両情報システム」として次世代トータリゼータシステム構築及びインターネット競輪動画サービスシステムの開発が決定されたことを受けて、中期的な重点事業として引き続きこれらシステムの開発を実施する。

(1) 次世代トータリゼータシステムの構築

競輪場において運営管理されているトータリゼータシステム(TZS)の多くは、今後数年内に機器の更新時期を迎える。また、TZS に対しては、導入・運用経費の削減、相互払戻の実現、車券発売時間の柔軟な対応、制度改正への迅速な対応などが求められている。

こうした要求に対応するために、競輪場に設置されている車両情報システム(VIS)の通報システムや情報提供システムの機能も含めて抜本的に見直しを行い、本財団のセンターシステムとして次世代トータリゼータシステムを構築することにより、競輪業界全体での TZS 本体に係る導入・運用経費の軽減化を図る。センターシステムと各場の発払機間の接続インターフェースについて、共通仕様を策定することにより、多様な発払端末を接続可能とする。

また、マークカード・車券の標準仕様を策定することにより、お客様の利便性向上等に資する。

ア. 一次開発

開発内容

・投票システム

各競輪場・場外車券売場の発払機に関して車券の発売・払戻を一元的に制御(共通インターフェース作成含む)し、各発払機から上がってくる票数を集計の上、場間場外システムに対して票数及び払戻金を送受信するシステム

・場間場外システム

投票システムで集計された各場集計票数と払戻金について、場間の中継を行うためのシステム

・情報提供システム

各競輪場・場外車券売場の情報映像系機器に対して、投票システムで生成される投票関連情報や統制イベント情報及び開催・選手情報などの競技情報を一元的に提供するためのシステム

・ネットワークシステム

センターシステムと各競輪場・場外車券売場の発払機・情報映像

系機器を接続するために、広帯域・高信頼性を有した拠点間システム

開発スケジュール

平成 21 年 10 月に投票システム、場間場外システム、情報提供システム及びネットワークシステムのセンター側回線を稼働させる。

センターシステムの稼働完了後に、各競輪場および場外車券売場の切替移行作業を開始し、平成 23 年 10 月までにすべての競輪場・場外車券売場を移行完了させる。

また、移行期間においては、継続的な仕様調整、試験対応、移行サポートを実施する。

イ．二次開発

以下の課題について検討を実施する。

投票システム新規機能として、重勝式の投票システム、バウチャー券等

情報提供システム新規機能として、情報提供サービスの標準化、テレドームの集約化、FAXサービスの集約化等

(2) インターネット競輪動画配信サービスシステムの開発

各競輪場が独自に行っているインターネットによる競輪の動画配信については、番組・画質・操作性等の面で統一性に欠けており、他公営競技と比較してサービス面で劣勢にある。一方、配信元である競輪場（開催施行者）からは、運用コストの削減が求められている。

こうした課題を解決し要望に応えるために、本年度は、インターネットによるライブ及びオンデマンド配信サービスを一元的に行うとともに、過去映像の検索機能、インターネット投票機能等、KEIRIN.JP と連携した高画質で多機能な競輪動画閲覧ポータルサイトの開発を平成 21 年 8 月までに完了する。

その後、稼働に向けての検証を行い本稼働に向けて準備する。

2. システムの研究開発

サービス及び信頼性の向上を目指して、電話投票システムの拡充、KEIRIN.JPの改善、及び競輪諸制度の改正に対応した開発を行う。また、今後のシステム開発・運用管理に資する調査研究を行う。

(1) サービス向上を目指した開発

ア 携帯用アプリの提供

電話投票の売上は、インターネット（パソコン・携帯電話）による売上が急速に伸びてきており、とりわけ携帯電話による売上の伸びが著しい。前年度に携帯電話からの投票の利便性向上を目的として、携帯アプリを導入し、操作性が大幅に向上するとともに、投票に必要な情報の取り出しがスムーズになった。本年度はさらに携帯アプリの対応機種を増やし、利便性の一層の向上を図る。

イ KEIRIN.JPの改善

平成18年6月に全面リニューアルされた競輪ポータルサイトKEIRIN.JPについては、お客様の利便性を一層図るため、使いやすさ・見やすさの向上等、お客様の要望を反映した機能改善（各ページのレイアウト・表現等）のための開発を引き続き行う。

ウ 現行システムのフォローアップ

VIS再構築フェーズ2の開発で、平成19年10月に稼働した「開催管理システム」及び「競輪情報検索システム」について、利便性を一層向上させるため、利用者の変動するニーズに応じて直近成績帳票の表示を見直す等、利用者の要望を反映した機能改善のための開発を引き続き行う。

(2) 信頼性向上を目指した開発

ア インターネット投票システムのKEIRINグランプリ09対応

今後ともインターネット投票の利用者数、投票数の伸びが見込まれることから、KEIRINグランプリ09においても、電話投票におけるベット数の拡大の影響及び携帯用アプリの利用状況を評価・分析し、より安定したインターネット投票サービスの提供が可能となるための必要な開発を行う。

イ 総合監視システムの整備

前年度、VISの稼働状況監視とシステムのログデータ収集、対象システムの拡大、及びリアルタイム化等、監視システムの効率化・高度化を図るために総合監視システムの開発を行った。

本年度は平成21年10月稼働を予定している次世代トータリゼータシステムを含め、VIS全体の業務を網羅できる総合監視システ

ムの開発を行う。

ウ セキュリティ診断対応開発

前年度、KEIRIN.JPを対象として実施したアプリケーション診断及びネットワーク診断の結果を踏まえ、セキュリティの一層の向上を図るための必要な開発を行う。

(3) 制度改正対応の開発

平成 21 年度以降の特別競輪等出場選手選考基準の見直し及び参加選手旅費規程の改正等、制度改正に対応するための必要な開発を行う。

(4) 調査研究

ア 次世代 V I S の調査研究

今後数年内の V I S におけるシステムライフサイクル終了時期を踏まえながら、現行システムを評価した上で、最新の技術動向を見据えた新 V I S 全体構想の調査・研究を行う。

イ 映像集配信システムの調査研究

インターネット競輪動画配信サービスと関連して、現在競輪関係団体において新たに検討しているレース映像に関する集配信ネットワークシステムの構築及びサービスの提供のあり方について、競輪関係団体と連携して調査・研究を行う。

3 . システムの運用管理

前年度に新たに実施された電話投票システムの拡充及び競技関連・レース体系関連制度の変更等に十分に配慮しつつ、競技関連、投票関連、情報提供関連及び KEIRIN.JP 関連の業務のシステムを確実に、効率的にかつ安定して運用管理する。

また、平成 21 年度に新たに稼働する次世代 T Z S 及びインターネット動画配信サービスの円滑な運用に努める。

なお、平成 20 年度に発生した重大なシステム障害を踏まえ、危機管理マニュアルに基づき障害の未然防止に努めるとともに、障害発生時には迅速で的確な対応を実施する。

(1) システムの運用管理

ア 車両情報システム (V I S) の運用管理

次の業務を実施するため V I S の運用管理を行う。

競技関連業務

競輪の開催に必要な関連情報を収集・蓄積・管理するとともに、併

せて開催運営に関する情報を提供する。

投票関連業務

本場・場外間の通報を迅速かつ正確に行う。また、電話投票・インターネット投票等に係わる処理を迅速かつ適切に行う。

情報提供関連業務

関係団体及び報道機関等に対する情報提供、電話投票会員及びその他お客様に対する情報提供を実施する。

また、競輪情報検索システム（KISS）による情報提供を実施する。

KEIRIN.JP 関連業務

KEIRIN.JP のデータ更新、お客様からの操作に関する照会対応等を実施する。

イ システム監視、データバックアップ等

新総合監視システムによりネットワーク機器を含めたVISの稼働状況を一元的かつ的確に監視する。また、障害の未然防止及び障害発生時の回復手段に活用するため、ログデータの収集、データのバックアップ等を実施する。

ウ 重勝式投票への対応

一部の競輪場が独自に実施する重勝式投票に関する情報（紙媒体）を、共同通信社等に提供する。

（2）新稼働システムの安定的な運用及びサポート

ア 次世代トータリゼータシステム

本年10月から稼働する、次世代TZSを円滑に運用する。

併せて、次世代TZS導入場に対する運用支援を実施する。

システム移行作業と並行して事前研修の実施

本番運用を想定したカリキュラムで、実機を使用し正常・異常・特殊・障害運用の全シーンに合わせた教育を実施

開催業務立会いの実施

イ インターネット競輪動画配信サービスシステム

本年度稼働予定の競輪動画閲覧ポータルサイトの運用を開始する。

（3）障害の未然防止及び障害発生時の対応

危機管理マニュアルに従い、危機管理における事前対策、応急対策、復旧対策及び事後対策を実施する。

とくに、定期的に障害訓練を実施するとともに、計画的にシステムメンテナンスを実施し障害の未然防止に努める。

ア システムの保守

定期的かつ計画的にシステムメンテナンスを実施し、障害の未然防

止に努める。

イ 危機管理マニュアルの見直しと周知徹底

新稼働システム及び障害発生事例を反映して危機管理マニュアルを改訂する。また、危機管理委員会において危機管理に対する調整・周知を図る。

ウ リハーサル等の実施

G 以上の開催において、一斉リハーサル及び前検リハーサルを実施し、災害・障害時の対応について、施行者・日本自転車競技会及びトータリゼータシステム保守会社との連携を強化する。

エ 障害訓練の実施

運用委託会社との定期的な障害訓練を実施するとともに、夜間のオンライン停止時間帯に本番機を使用した電投サーバの系切替等の障害訓練を実施する。

(4) 新規場外開設時等のサポート

新たに場外車券売場の設置及び設置形態を変更する施行者及び日本自転車競技会に対して、システムの導入・接続及び運用管理を支援する。

(5) マシン室設備環境の整備

ア 電源設備の増設

本年10月から稼働する、次世代T Z S用に電源設備を増設する。

イ レイアウト変更

本年10月から稼働する、次世代T Z S用に機器等のレイアウトを変更する。

(6) 講習会及び研修会の開催

新稼働システムの説明、障害の未然防止及び障害発生時の迅速かつ適切な対応を内容とした「通報系実務担当者講習会」、「通報系新任者講習会」及び「自転車競技会担当者講習会」を実施する。

また、「K I S S講習会」を実施し、K I S Sからの次世代トータリゼータシステムの帳票データ提供を促進する。

(7) 情報セキュリティ対策

個人情報保護法を遵守するとともに、V I Sへのアクセス制限等管理を徹底する。また、平成20年度に稼働したシステムに対するセキュリティ診断を実施するとともに、必要な安全対策を実施する。

(8) 運用体制の整備

本年10月から、現行システムと次世代システムが並行的に稼働することから、システムの稼働に万全を期すため運用体制を見直す。

4 . 財団の運営管理

本財団の事業を効率的、効果的に実施するとともに、公益法人制度改革及び事業の拡大に対応するために必要な事業・組織の見直し、規程類の整備、技術力の向上等本財団の運営管理の強化を図る。

また、本財団及びV I Sの信頼性の向上を図るため、システムの外部監査を実施する。